

令和6年度 第1回八戸市生活支援体制整備推進協議会 議事録

- 日 時 令和6年10月15日（火）午後2時から午後3時まで
- 場 所 市庁本館3階 第二委員会室
- 出席委員 池田 右文 委員、荻ノ沢 哲也 委員、立石 真司 委員、中里 雅恵 委員
橋本 百子 委員、水溜 広 委員、
※ 五十嵐 潤 委員、堀内 美佐江 委員は欠席
- 事務局 町井 健二 高齢福祉課長、江渡 聡子 地域包括支援センター所長、
島田 拓巳 主幹、柏崎 雄介 主査兼社会福祉士
岩間 歩乃佳 主事兼社会福祉士、

次第1. 開 会

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

それでは定刻となりましたので、ただいまより令和6年度第1回八戸市生活支援体制整備推進協議会を開会いたします。

本日の会議でございますが、委員8名中6名の委員が出席しており、半数以上の出席となっておりますので、「八戸市生活支援体制整備推進協議会規則」第5条第2項のとおり、会議が成立することをご報告いたします。

開会に当たりまして、池田会長よりご挨拶をお願いいたします。

■池田会長

皆さん、こんにちは。今日はお日柄が良く、連日暑かったり寒かったりする天気が続いていますが、こうして第1回の生活支援体制整備事業の方開催できたのは、本当に嬉しく思っております。

今回、第1回ということで、今まで開催したものを皆さんと振り返りながら、今後についてお話しできればと思っております。皆さんのご意見を出していただいて、ディスカッションできればと思いますので、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

次第2. 委嘱状交付

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

ありがとうございました。

初めに、新たに本協議会の委員としてご参画いただく方に委嘱状の交付を行います。佐々木福祉部長が席に参りますので、お名前を呼ばれましたら、その場でご起立の上、お受け取りください。

八戸学院大学健康医療学部人間健康学科 講師 立石真司様。

佐々木福祉部長兼福祉事務所長より、立石真司 新委員へ委嘱状を交付

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

それでは、立石委員よりご挨拶をお願いいたします。

■立石委員

改めまして、八戸学院大学の立石と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私自身は令和5年4月から着任しまして、まだ1年半ぐらしか経っていないのですが、長らく岩手県盛岡市で、障害福祉分野で実践をしてきた経験がありますので、そういった経験を生かしながら、地域包括ケアシステムの中では、高齢者だけではなく、障害者も子供も、全ての方々が含まれていると思いますので、こういった形で学生も参画しながら、ご協力をさせていただきたいと思っております。

本学は社会福祉学科が無いものですから、福祉の教育はさせていただいているのですが、例年10人前後の卒業生ということになります。今年は、4年生6人が全て資格を受験するというということになりますので、今回のワークショップに参加させていただいて、やっぱり楽しかったということで、経験をすることで学びの機会が増えるということになるので、ぜひ実践の場に参加させていただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

ありがとうございました。

ここで委員の皆様をご紹介いたします。

- ・株式会社池田介護研究所 池田 右文 様です。
- ・社会福祉法人みやぎ会 三八城・根城地区高齢者支援センターみやぎ 荻ノ沢 哲也 様です。
- ・八戸学院大学 立石 真司 様です。
- ・社会福祉法人八戸市社会福祉協議会 中里 雅恵 様です。
- ・生活協同組合コープあおもり 橋本 百子 様です。
- ・八戸市民生委員児童委員協議会 水溜 広 様です。

以上6名の委員の皆様で生活支援体制の充実・強化、高齢者の社会参加の推進に向けて施策の検討などをお願いしたいと思います。

続きまして事務局の職員を紹介いたします。

- ・高齢福祉課長 町井 健二です。

■町井高齢福祉課長

今年の4月に高齢福祉課長を拝命いたしました町井と申します。

先ほど立石委員様の方からございましたけれども、私も3月までは障害福祉課の方に3年間勤めておりました。高齢福祉分野は初めてで、半年経つわけですがけれども、日々勉強をしておりました。本日も、いろいろ皆さんのご意見をお聞きしながら、勉強させていただきたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

- ・地域包括支援センター主幹 島田 拓巳です。
- ・地域包括支援センター主査兼社会福祉士 柏崎 雄介です。
- ・地域包括支援センター主事兼社会福祉士 岩間 歩乃佳です。

最後に私は地域包括支援センターの江渡と申します。よろしくお願いいたします。

それでは議事に入ります。ここからの進行は池田会長にお願いいたします。

次第3. 議事

■池田会長

それでは議事の方に入らせていただきます。

まず、はじめに、(1) 八戸市地域包括ケアシステム推進学生サポーター養成研修会の開催報告について、事務局より説明をよろしくをお願いします。

(1) 八戸市地域包括ケアシステム推進学生サポーター養成研修の開催報告

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

議事1になります。八戸市地域包括ケアシステム推進学生サポーター養成研修会の開催報告について説明をさせていただきます。資料は1-1をご覧ください。着座にて説明をさせていただきます。

研修会の目的ですが、本事業における協議体に位置付け、例年開催をしておりますワークショップに参加する意向のある学生を対象に、事前学習として、本研修を実施することで、ワークショップにおける学生のより能動的な参加を促すことを目的に実施しており、平成30年度から継続して実施しているものでございます。

開催場所につきましては、参加する学生の受講しやすさを考慮いたしまして、八戸学院大学内の講義室をお借りして実施しております。

参加条件といたしましては、八戸学院大学または八戸学院大学短期大学部の学生であること、ワークショップへの参加意向を有すること、所属先のゼミの先生からのフォローアップを受けられることとしております。なお、フォローアップの内容といたしましては、特別な対応を依頼するというものではなく、学生へのワークショップ参加の調整をいただいたり、また、学生がワークショップへ参加している様子を気にかけていただくという程度のものを想定しているところでございます。

研修概要ですが、6月の24日、26日、28日の3日間にわたり、それぞれ1時間の内容で実施いたしました。

1日目は、八戸市の現状と高齢者福祉施策について、私が担当させていただきました、生活支援体制整備事業の概要と研修、ワークショップの位置づけ、また少子高齢化の状況など当市を取り巻く状況、そしてそれを踏まえた当市における高齢者施策などについて説明を行いまして、最後にワークショップの参加に向けた注意点を伝えております。

2日目は、地域包括ケアシステムの基礎理解について、八戸学院大学の太田先生より講義をしていただきました。学生にとっては既に学習していることの復習となる内容ではありましたが、地域包括ケアシステムの内容を中心に説明いただいております。

3日目は、グループワークの基礎理解と基本的技能について、本日ご出席いただいております八戸学院大学の立石先生より講義をしていただきました。「魅力ある大学について考える」というテーマで実際にグループワークを行い、最後に全体発表を行うことで、各グループから出た意見を共有しております。

また、3日間の研修の中で欠席した学生につきましても、立石先生にご協力をいただき、補講を行い、無事に受講を修了しております。今年度の受講修了者は、3年生6名、2年生4名、1年生1名の合計11名となっております。昨年度以前に受講を修了している学生と合わせまして、現在在籍している学生で研修受講を修了しているのは21名となっております。

資料1-2から1-4につきましては、参考として、研修で使用了資料をお配りしておりますので後ほどご覧いただければと思います。

以上で議事１の説明を終わります。

■池田会長

ありがとうございます。立石委員、何か補足などありましたら。

■立石委員

本来であれば、もっと多くの学生に参加していただければなというところですけども、なかなか夕方の時間帯であると、部活とかバイトで、そして３日間ということになるとなかなか参加が難しいということで、ちょっと少なかったんですけど、このような形で開催させていただいて、補講についても、ご協力していただきながら行って、何とかこの人数ということになりました。

参加した学生は、基本的にワークショップは絶対参加っていうふうにはしたいのですけども、そこまでもいかないところと、ワークショップについても土日がメインの開催になるので、そういったところで少し多めの学生に参加してもらいながら、行けるときに行くというような形を取らせていただいております。

なので、こちらの研修会については、概ねグループワークもしましたが、実際のワークショップの練習ということで意見交換の機会を持つ中で、学びを深めていただいたかなというところでした。今後のワークショップに参加できるように働きかけをしながら、進めてまいりたいと思っております。

■池田会長

学生が中心になって、ケアシステムを学んで、それを推進していくってすごく重要かなと思いますね。すごく素敵なことだとは思っていました。

その他、皆さんの方で何かお聞きしたいところとか、何かありますか。

荻ノ沢委員とかどうですか。地域包括の高齢者支援センターとして行っていて、学生とかがサポーターで来てくれたりすると、すごく幅が広がっていくのかなと思うんですけど。

■荻ノ沢委員

そうですね。学生が入ると、普段仕事をしている私達の目線とはまた違ったいろんな目線で、大分違うなと思いますね。

■池田会長

いろいろなところで、学生の人たちが活躍できる場ができれば、本当にいいなというふうに思っています。ありがとうございます。

ではご質問がないようだったら、次に進めさせていただきます。(２)の住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、事務局より説明をよろしく願います。

(２) 住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

議事の２つ目になります。住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について説明をさせていただきます。資料２-１をご準備ください。

このワークショップにつきましては、生活支援体制整備事業における第２層の協議体に位置づけまして、毎年３回程度開催しているもので、本日ご報告をさせていただく内容は、今年度第１回目の開催の内容となっております。

日時は８月３１日の土曜日、１０時から１２時の時間で開催いたしました。

場所は三八城公民館２階のホールを使用しまして、三八城地区を対象に実施しております。

参加者は１８名で、内訳は民生委員や町内会などの地域関係者が１５名、八戸学院大学

の学生が3名となっております。その他、三八城地区を担当する高齢者支援センターみやぎの方からも職員が2名出席しております。本日まで出席いただいている荻ノ沢委員も、センターみやぎの職員として当日ご出席いただきました。

概要といたしましては、大きく話題提供とワークショップの2つの内容で行いました。話題提供の内容といたしましては、八戸市の高齢者の状況について高齢福祉課から、地域包括ケアシステムの解説につきまして八戸学院大学の大木先生からそれぞれ説明を行っております。

ワークショップでは、「誰もが住みやすい三八城地区」をテーマに、7、8名ずつの3グループに分かれまして、グループワークを行いました。

各グループから出た意見の主なものを、属性別に表にしてまとめておりますが、まず「インフラ・生活環境・交通」に関しましては、道路やバスなどの公共交通機関に関する意見が多く、その他、買い物がしやすい環境を希望する声も聞かれていました。

「町内会・近所づきあい」の項目に関しましては、町内会を中心とした近隣住民同士での関係を良くしていきたいという意見が多く聞かれていました。また、高齢者であることを楽しむや、高齢者も支える側になれるなど、これからの生活を前向きに捉えている意見も聞かれております。

裏面にまいりまして、「居場所作り」に関しましては、公民館サロンなどの既存の場をより活用していこうという考えや、新たな居場所の創出に関する意見も聞かれております。

また、「子育て環境」の部分にもまたがりませんが、子供などの若い世代との世代間交流が行える場所や機会を作っていきたいという意見も多く聞かれております。

今回特徴的だったのが、「イベント・SNS」に関する意見が出ていた点で、SNSの積極的な活用ですとか、イベントを企画し、様々な年代の人に活躍できる場や出番を作っていくということに関しての意見も出ておりました。今回、中心街に拠点を構えて、街の活性化に繋がるようなイベントを企画している団体「まちぐみ」の代表者の方にも出席いただいております。イベントやSNSの意見については、その方が入ったグループから出ていた意見でした。

今回出された意見につきましては、各参加者が今後の生活や地域で活動を行う中での手がかりにさせていただき、他、高齢者支援センターや市包括が事業を進めていく上で参考として活用できればと考えております。

次に、ワークショップに参加した方に記入いただいたアンケートの結果について、資料2-2によりご説明いたします。

出席いただいた18名のうち14名の方にアンケートに回答いただきました。属性についてはグラフでお示ししておりますが、当然ながら多くの方が三八城地区に居住しており、年齢層では70代が5名と最も多く、次いで60代が3名となっております。地域における活動内容については、例えば、民生委員と町内会長を兼任していたりと、複数にまたがる場合もありますので、回答数の14とは一致していませんが、民生委員として活動している方が最も多かったです。

2ページからは各設問に対しての回答内容になっておりますが、まず1、参加した感想については、14名全てが参加して良かったと回答いただきました。いただいたご意見については記載の通りとなっておりますが、普段、民生委員や町内会、学生同士など、同じ立場での集まりや会話が長い中で、ワークショップのように異なる立場、年代と意見を交わすことで、新たな意見や情報に触れることができてよかったという意見が多くありました。

次に2、今後も継続すべきかについては、14名全てが継続すべきと回答しました。こ

ちらも設問1同様に、前向きなご意見を多数いただいております。

3ページに参りまして、3、改善点についてですが、時間が短かったという意見と、より多くの、また様々な年代の参加を求める意見の大きく2つの意見がありました。時間配分につきましては、話題提供とワークショップの時間のバランスについて、今後のワークショップの中で検討していきたいと思っています。また、参加者の部分につきましても、いただいた意見を踏まえまして、高齢者支援センターから地域に参加の呼びかけを行う際に、工夫していければと考えております。

次に、4、学生が参加したことの印象について地域関係者に対して聞いた設問ですが、学生の若い意見は大事や空気が良くなった、世代間交流ができてよかったという意見が多く、大変好印象だったようです。また、5、地域の方と接しての印象について、学生に聞いた設問になりますが、困り事が多くあったや、興味深い視点と意見がたくさん出て学べたなど、実際に地域に入って話を聞くことでの気づきがあったようで、それぞれの立場にとって有意義なものになったと感じました。

今回いただいたご意見を参考にし、また学生の皆さんの力も借りながら、引き続きワークショップを開催、継続していければと考えております。

また今年度第2回、第3回のワークショップにつきましては、第2回は11月30日の土曜日10時から吹上公民館で、第3回は翌日の12月1日の日曜日10時から長者公民館で、それぞれ開催を予定しておりますので、次回の協議会において結果を報告させていただきたいと思います。

以上で議事2の説明を終わります。

■池田会長

今回は荻ノ沢委員と立石委員の御二人がご参加されたので、お聞きしたいんですけど、荻ノ沢委員からお願いします。

■荻ノ沢委員

まず、今回「まちぐみ」の方に声をかけさせてもらったんですけども、今まであまり交流のないような方々も入ってもらうことで、また違った意見が出たら面白いのかなと思ってお願いしました。実際 SNS 活用とかそういう話が出て、また違った感じで面白かったなと思っていました。

あとワークショップ自体ですが、数年前にも同じ地区でやったんですけど、その時とも若干意見というのも違ったりして、前回買い物だったりとかの話が多かったんですけど、今回は交通のところとか、あと町内会、近所づきあいのところ、お隣との関係性が薄いといったお話、あとは子供との関わりがないとか、そういった意見が出て、参考になったなと思っています。

学生の方も結構意見をたくさん出していただいて面白かったですし、私どもの法人の職員も出席させてもらって、ワークショップが終わった後に、何かできることないかというのをもう1回話し合っているような状況でした。

■池田会長

一番いい場所なんですよ。街に近くて、そういう意味では「まちぐみ」の方は、あの辺りのインフルエンサーみたいな人なので、もっと学生が来てもらえば、本当は良かったのかもしれないですよ。大学以外の高校生とか、そういうところも巻き込んでいけばもっと面白かったのかなと思います。多分、高校生が結構多いと思うんですよ。「まちぐみ」に來ている方は。そういうところも、今度繋げていければもっと面白いなと思っていました。

代表の方もアーティストですので、そういう意味で感性とかもまた違うので、そこは SNS とかそういう絡みになったのかなと思って、面白いなと思っていました。ありがとうございます

います。

では、立石委員からお願いします。

■立石委員

良い意味でも悪い意味でも、議論が停滞した部分もありまして、批判しないようにというグラドルールは定めたものの、意見を出していると、「それはできないから無理だから」みたいな話になったりして、介入しないとなかなか話している人と、聞いているだけの人たちができてしまったので、その部分は私自身も進め方がうまくなかったと思いながら、反省するところでした。

ただ、後半になるにつれて、学生が入っていることで意見が活発に出て、最後は丸く収まったのかなと思いながら見ておりました。ただやっぱり1回やって終わりじゃなくて、継続することで見えてくることってあるのだろうなということなので、まず1回やってみて、次実際に具体的にどうするっていう、ただアイディアを出して終わりじゃなくて、やってみて、地域の中でというのを学生も含めて一緒にできればいいのかなと思っていました。

ただ、やはり日程がどうしても土日ということになると、学生も以前と違って、自分の生活優先というところもあったりして、授業の一環で連れて行ければ、本来はいいのかなと思いながら、なかなかそのあたりは難しいところかなと。おそらく以前はゼミ単位で、学生を丸ごと連れてきてということができたと思うんですけど、なかなかそういった状況も昨今難しく、あとはコロナ禍を挟んでいるので、おそらく地域の方々も話し合いとかって久しぶりだったんじゃないかなというところがあるので、そういった意味でも、特に学生はコロナ禍で青春時代を過ごしているので、こういったグループワークがすごく苦手な学生が多くて、以前はおそらく入ってもすんなりできたと思うんですけど、事前にお伝えしながらやらないと、本当に1人の学生はあまり話せず終わったと思いますので、そういった意味でも学生自身も学校の中で、ワークショップというか、グループワークの練習をしながら、ぜひこれから福祉を目指す方は特に、人前で話す機会も多いと思いますので、ある意味ではトレーニングっていうことで、出てもらおうと一番いいのかなと思っておりました。

今年度あと2回ありますので、今、学生を募っていましたので、前回よりは少し多く参加していただきながら、また継続的にご協力できればなと思っておりました。いろいろ今回の反省点を踏まえて、実践していきたいと思っておりました。

あと、感想の方にもありましたけれども、説明の時間が長かったというご意見は最もかなと思うので、グループワークが1時間ぐらいだったので、駆け足になって、最後、発表も足早になってしまったところがあるので、もう少しグループワークの話し合いのところに時間を割ければいいのかなというのは思ったところでした。

■池田会長

少し戻るんですけど、三八城地区ってそれこそ荻ノ沢委員のところで、八食センターへのイベントをやったりと、地域的には結構いろいろ活性化されているのかなと思うので、さらにそういう外部の活性化につながる人がいると、すごく面白いのかなというのは感じてはいたんですけどね。

■荻ノ沢委員

そうですね。ちょっと八食センターの取組みは終了してしまったんですけど、今回、本当にいろいろ刺激を受けてこちらも帰ってきたので、その中でまた何か新たにやりたいという話はしていたので、その辺をうまく今回参加してくださった方々も巻き込んで行えれば、また違うのかなと感じています。

■池田会長

皆さんからも、一つずつお聞きできれば。
橋本委員どうぞ。

■橋本委員

やっぱり学生さん達がバイトとかあって、ワークショップって今、土日を中心にやってらっしゃいますよね。これを平日の何時からとかっていう、学生さん達が参加できるような体制にはならないものなののでしょうか。

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

お答えいたします。

結論から言うと可能だと思います。ただ、出席いただいている方々が、民生委員だけではなく、例えば薬局にお勤めの薬剤師とか地域の関係者の方を呼ぼうとしたときに、高齢者支援センターなどとも相談をして、土曜日とかのお休みの時間の方が集まるかなというところもあって、土曜日の開催が主になっていました。

開催する毎に、開催日などを調整していますので、その折り合いがつけば、あと会場がしっかり確保できれば、例えば平日の午後とかの時間の中で開催することもできるかなと思うので、そこは先生方とも相談をしながら、学生の方も積極的に参加していただけるようなあり方というのを考えていきたいと思います。

■池田会長

でも、難しいところもあるかもしれませんね。ゼミがあつたりすると、参加できないですもんね。だから、今ゼミでやれなくなったっていうのは、結構痛いかもしれないですね。

■立石委員

そうですね。出かけてしまうと、90分のコマなもので、行って戻ってと考えると、間の時間がそんなに無くて。時間的にも難しいってところがあるので、基本的に土日で差し支えないと思うんですけども、可能な限り学生には参加してもらう方向でお願いできればと思うのですが、土日に練習や大会というのが入っておりまして、その辺は来れない人のために違う人っていう感じで、役割分担できればいいなと思っていました。貴重なご意見ありがとうございます。

■池田会長

地域関係者として、水溜委員の方から何か。

■水溜委員

見ましたら、民生委員の方とか町内会の方とかが多いなと思って。時間的には、この人達はあると思うから、土日でなくても平日でも大丈夫だと思いますけどね。高齢者の方、70代の人が多いみたいで、やはり70代の方はもうほとんどお仕事もしていないような状態ですから、結構集まりに集まるし。問題は今お話したみたいに、学生の方がどの程度来れるか。町内会とか、えんぶり、消防団なんか、いろんな団体の方が行っているみたいで、いいと思いますよ。こういうふうな集まりは。

うちの方は柏崎地区なんだけど、柏崎地区は区民運動会を子供たちも一緒にやっているんですよ。区民運動会自体はもう子供と一緒に。そういう感じで、やはり催しものは、人と会う機会の多い方が、いろんな問題点が起きたにしても、すぐ解決しやすい。えんぶりもありますし、柏崎は今、新しくお祭りの山車小屋もつくっていただきまして、お祭りなんか、子供たちも高校生とか大人の人と一緒に交わって、意見交換じゃないんだけど、いろんな人と会う機会がすごくいいと思います。

■池田会長

そうですね。

今のってすごくいいヒントかなと思っていて、私の住んでいる地区は何もないんですよ。三社大祭もないし、えんぶりも全く何もないので、逆にこの中心部は関わりがいもあるのかなと感じていて。そういう状態なので、やはり祭りとかそういうのって結構大きいのかもしれないですね。

■橋本委員

うちは東中居林なんですけど、何個か集まっていて、コロナでお休みしていたので、今年から運動会もやりましたし、今月はおせんべい焼きで子供たちと集まって作ったりとか、今月の末はバス旅行もやって。小さい子も。そうでないとなかなか集まらないですよ。

■池田会長

以前からある地区で、ある程度出来上がっているところは結構あるのかなと思います。うちの近くでも旭ヶ丘地区だと、やっぱりいろいろお祭りもやっていますし、いろんな催し物があるので、やはりその地域の特性が、八戸市でも全然違うのかなと感じていましたね。

■橋本委員

それでも、なかなか小学生が少ない。中学生はなんとか。小学生がちょっと少なかったから声かけが足りなかったかなあと。

■池田会長

中居林の地区は結構高齢化が進んでいるので、やはり子供が少なくなっていることは顕著に見えるのかなというのはありますよね。

■橋本委員

田向地区の新しくなった部分がちょうど町内に入るので、イオンの裏の方とか、公園がある辺りが町内に入っているんで、そこで少しは子供たちが増えてきたかなっていう感じです。

■池田会長

面白いですね。ありがとうございます。

最後、中里委員の方から何か。

■中里委員

どういう方々に声をかけて、このワークショップに参加されているのかなと思って、どうやって声掛けしていますか。

■荻ノ沢委員

まず民生委員にお願いして、そこから町内会長であったり、近所の方で参加できる方にも、一緒にお願いしますっていうところと、あとは、今回そういった方々だけじゃなくて、違う分野とかの意見も聞きたいなと思って「まちぐみ」さん、本当はその前に、障害者の方の施設とかそういったところにもちょっと声かけようかと思ったんですけど、都合がつかせませんでした。

■中里委員

本当に幅広く、今回子供会の方も出ているし、地区社協とかに声かけたのかなと思ったんですけど、社協とかには声をかけてはいないですか。民生委員に声をかけて、そこからこうですかね。

■荻ノ沢委員

民生委員と地区社協が兼務している場合もあるので。

■中里委員

三八城地区は民生委員と地区社協が月 1 回研修会をやったりしている地区で、高齢者の

サロンも年 7 回ぐらいあったりとか、子育てのサロンもやっている地区で、同じ方がやっている場合もあるんでしょうけど、それでも本当にいろいろ活動されている地区だなと思っていて、さっきの感想とか聞いていても、いろんな人が入ることで、それぞれの立場、それぞれの話を聞いてもらえて嬉しかったっていうか、私達の生の考えを聞いてもらったことが嬉しかったって、これは地域の方がおっしゃっているんだと思いますけど、そういう機会とか、子供たちにそれを伝えとか、それぞれの立場で理解し合いながら自分たちの地域をどうやって良くしていこうかなって考える機会っていうのはすごくいいなと思っています。なので、さっきおっしゃっていた障害者の施設だったりとか、地域にある社会資源の方々にも、広げて声をかけていくと、もう少しまた違った視点で、お話聞けたりとかするのかなと思って聞いてみました。ありがとうございます。

■池田会長

そうですね、それこそ地域包括というか、包括ケアと考えると、いろんな人が来てディスカッションできるというのが本当の理想かもしれないですね。何かできそうな感じがですね、この地区。今回、いいワークショップでしたね。

はい、ありがとうございます。

皆さんその他で何か、お聞きしたいこととかご意見とかありませんか。なければ、次に進みたいと思います。(3)生活支援コーディネーターの変更について、事務局より説明をお願いいたします。

(3) 生活支援コーディネーターの変更

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

議事の3つ目になります。生活支援コーディネーターの変更について説明をさせていただきます。資料3-1をご覧ください。

生活支援体制整備事業においては、主に協議体の設置と生活支援コーディネーターの配置、この大きく2つのことが、市の役割として求められています。

その中で生活支援コーディネーターについては、市包括支援センターと、市内12ヶ所の高齢者支援センターの専門職が、兼務をする形で配置をしております。市包括支援センターのコーディネーターを第1層コーディネーターとし、市全体に係る事業の実施に向けた対応を、高齢者支援センターのコーディネーターを第2層コーディネーターとし、地域レベルでの活動をそれぞれが行い、相互に連携をしながら、地域における社会資源の開発、関係者同士のネットワークの構築、高齢者のニーズと社会資源のマッチングなどの支援を行っているところです。

この度、職員の異動や退職がありまして、生活支援コーディネーターに変更がございましたので報告いたします。

市包括支援センターにおいては社会福祉士の山口から社会福祉士の岩間へ変更となっております。

高齢者支援センターについては、柏崎・吹上地区高齢者支援センター八戸市医師会において、大前看護師から若宮社会福祉士へ、田面木・館・豊崎地区高齢者支援センターハピネスやくらにおいて、小泉主任介護支援専門員から安保保健師へ、是川・中居林地区高齢者支援センターミライフルにおいて、井上主任介護支援専門員から田向看護師へそれぞれ変更となっております。

引き継ぎなどにつきましては、これまで同様に、前任者やセンター内の別のコーディネーターからの引き継ぎを基本としつつ、必要に応じて、機会を捉えて事業の説明を行っていきたいと考えております。

資料3-2につきましては、今回の変更を反映した生活支援コーディネーターの一覧となっております。市包括に3名と、高齢者支援センターに各2名の合計27名体制となっております。引き続き連携をしながら、本事業を推進していきたいと思っております。

以上で議事3の説明を終わります。

■池田会長

コーディネーターの変更のご説明だったんですけど、皆さんの方から何かお聞きしたいこととかございますでしょうか。

ちなみに荻ノ沢委員は、高齢者支援センターで実際お仕事されていますけど、実際ここにいらっしゃる方が、あまり高齢者支援センターというのが見えなかったりもするので、せっくなので、高齢者支援センターの内容とか聞きたいなと思っているんですけど。

■荻ノ沢委員

簡単に言えば、65歳以上の高齢者の相談窓口っていう形で何かあればセンターの方にご連絡いただいて、その都度一緒に何かできることがないか、こういったサービスあるという紹介であったり、あとは介護申請の代行とか、そういったところが一番メインのところになるかなと思います。あとは、介護予防教室とかも年24回くらいの回数で、三八城公民館、根城公民館、あと根城コミュニティセンターの3ヶ所を使って、1ヶ月に1回ぐらいずつ開催しているような形です。

■橋本委員

そういうのって、回覧板みたいな形で内容とか来たりするんですか。

■荻ノ沢委員

そういうところまでは流さないですけど、予防教室とかのチラシはお願いして流すようにしています。そこに参加していただいた方には、高齢者支援センターのチラシとかもお渡ししながらという感じです。

■橋本委員

多分一度行けばわかるかも知れないですけど、知らない方も結構いるんじゃないかなと思ったりするので。

■荻ノ沢委員

あと私達の方から直接、地域の65歳以上の方のところに訪問して、いろいろ生活状況とか困っていることがないか聞いて歩いたりもしています。全部は行けないですし、高齢者支援センターというのをまだ覚えてない、わからない方もいらっしゃるって、中には何しに來たみたいな感じになってしまうこともよくあるんですけど、そういう形で、少しでもわかるように活動はしています。

■池田会長

内容としては、何か大変なことがあったらすぐにご相談くださいね、みたいな感じで回っているというような感じですね。

■橋本委員

あと、コロナ前だったと思うんですけど、タクシーが来てくれて、何人か乗り合わせて行って、場所が社協だったと思うんですけど、要支援とか受けてない時期に、高齢者の体操とかをやるようなものを市でやっていたのか、そういうのは市でやっていますか。

■事務局（江渡地域包括支援センター所長）

通所型サービスCと言って、短期間、介護保険のサービスになる前の方で、生活に心配のある方が自立に向けて短期間集中的に運動機能向上する教室を福祉公民館の方で以前はやっていました。事業所が変更になりまして、ラピアの中と、もう一つは沼館の2つの事業所の方で、送迎付きで行っています。

■池田会長

通所Aって今もやっているんですか。

■事務局（江渡地域包括支援センター所長）

通所Aも何ヶ所か、利用実績はまだこれからなんですけれども、行っています。

■池田会長

実際、私も通所Cをやったことあるんですけど、なかなか人が集まらなくてですね。

本当は元気な人が元気でいるのが理想ではあると思いますんで、一番必要なものかなと思うんですけど、なかなか今やる必要ないと思って、来ないのかなっていうところもあるんで、その辺は難しいなと思いますね。元気な人がより元気でいるのが本当は一番いいと思うんですけどね、元気だからいいやって思っている方が多いのかなって思いますね。

■事務局（江渡地域包括支援センター所長）

あと追加で、高齢者支援センターについては、年1回広報の方に掲載をさせていただいて、皆さんにお知らせしているのと、先ほど荻ノ沢委員もおっしゃったんですけど、1人ひとり実態把握で訪問していただいて、すごい数の高齢者が地域にいますので、民生委員とか地域の方の力を借りて、定期的に連絡を取り合って、気になる方を教えていただきながら、対応をさせていただいています。

本当に幅広く、なんでも相談にのってもらえるので、全部をセンターがやるというよりは、適切なところにご案内するという形で、いろいろなところへ繋いでいく役割が大きいのかなと考えています。本当に幅広い相談に対応してくれております。

■事務局（町井高齢福祉課長）

あと大きなものの一つが、高齢者虐待です。

虐待等の対応も、先ほど説明がありましたけど、市内12地区において高齢者虐待が発生すると、センターの方に連絡があり、虐待を受けた方、あるいは虐待を行った方へ聞き取り、あと警察からも連絡というのが結構あるんですけど、そちらの方とも連携しながら、24時間365日対応いただいております。

■池田会長

ただ今聞いた中でもかなりの量ですよ。

それだけ地域で重要な存在になっているってことではあると思うんですけど、民生委員の方々と町内会長さん含めてね、やっぱり連携して地域の皆さんを守っていくという形ではあるのかなと思いますよね。生活支援体制で会議に出ている、高齢者支援センターが何をやっているのが結構わからなかったりして、こうして確認できるのもいいのかなと思っています。どうもありがとうございました。

最後になりましたが、ご質問などございますでしょうか。

■橋本委員

介護度がついている方とかで、施設に入りたくても入れないとか、待機しているっていうのは、八戸市内にはいらっしゃるんですか。施設に入れる人数があるじゃないですか。それは足りているんですか。

■事務局（江渡地域包括支援センター所長）

あんまり即答できないですけども、待機者はいらっしゃると思います。

特別養護老人ホームと言って生活する施設なんかは、1ヶ所ではなく何箇所か申し込んで待っているという話は聞いています。ただ何人ぐらい待っているかというのは、把握していません。

■事務局（町井高齢福祉課長）

介護保険の制度を使っただけの入所というのが、老人保健施設とか、いろいろあるんですけ

ども、それはやはり待機者が結構あるというふうに伺っています。

介護保険制度が始まって、ずっと続いているものでありまして、そうして入れない方などが、一般の老人ホームに入りながら、介護保険のサービスも利用するという場合もあります。どうしても自己負担っていうのが、実費分も含めかかりますが、そういった有料老人ホームなどに入って生活している方もいますけれど、足りているかと言えば、足りていないのかなと思います。

■池田会長

難しいところですね。

多分、ここにいる方はほぼ在宅の支援をされていると思うんですけど、在宅から施設に行かなくてはいけない時というのがありますんでね。そのときに足りているかというと、現状はわかんないところもあるんですけどね。

ただ、施設だけじゃなくて病院だったりもあるので、それを考えると、そこまで全くないっていうことでもないかもしれないけど、今課長が言ってくれたように、特別養護老人ホームが安かったりとか、そういう価格的なものもあるので、それを考えたときにやはり本人としては、安いところで安心して暮らせるところというのが求められるのもあるかなと思いますね。

■橋本委員

周りに誰かいればいいですけど、市内で一人暮らしの方もいらっしゃるでしょうし、遠くにしか親戚の方いらっしゃらないっていう方もいっぱいいると思うので、出来たらそういう施設にすぐにでも入れる形にしていければ一番いいなと思います。

■池田会長

あと、施設の前に今1人でいらっしゃる方々、1人でいるんじゃないくて、ちゃんとコミュニティを作っている状態にできれば本当は一番いいですけどね。それがこの委員会でもあるのかなと思うんですけど、ただ、実際それがまだまだこれから時間がかかるところもありますし、やらなきゃならないことも多いのかなと思いますので、形がないだけに、こうして話して、それをみんなで見つけて、ワークショップとかでヒントも見つけていくって感じになるのかなと思いますね。

■橋本委員

小学校とかも廃校になっているところとか結構あるじゃないですか。あと、個人宅も、みんないなくなったりして、そこを利用できたりとか、町内とかでできないのかなと思っております。できたらそういう居場所作りが市とかでやっていけないかなと。

■池田会長

そうですね。それがこれからどのような形で、新しいサービスとか、新しい仕組みにしていけるかっていうところにはなるのかもしれないですね。ありがとうございます。

本日の案件はこれで以上となりますが皆さん大丈夫ですか。

委員の皆様、本日はご意見どうもありがとうございます。これをもちまして議事を終了し、進行を事務局へ戻したいと思います。よろしくお願いします。

次第4. 閉会

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

池田会長ありがとうございます。

それではこれをもちまして、令和6年度第1回八戸市生活支援体制整備推進協議会を閉会いたします。委員の皆様大変お疲れ様でした。ありがとうございます。